

# 現役世代の社会参加の促進に関する取組み

## なぜ今『2枚目の名刺』なのか—「会社人」が「社会人」になる取組み—

NPO法人二枚目の名刺 代表 廣 優樹

### 1. 『2枚目の名刺』とは

「副業の解禁」は、働き方改革の中でも目下議論されている重要なテーマの一つである。ところが、この副業解禁に抵抗感を持つ経営者は少なくない。それは、「副業」が、会社に隠れてやるもの、小遣い稼ぎのためにやるもの、本業に支障を来たすもの、といったイメージをもつことに起因する。2016年に日経新聞で実施された調査では、約8割の大企業経営者が副業解禁に反対という立場である。

一方、ここ数年、そうした「副業」とは異なる社外での活動、すなわち「組織（会社）や立場を超えて、社会を創る活動」に取り組む人が増えている。こうした人たちの意識は、お金を得ることだけを目的とした副業でもなく、また自分のためだけの趣味でもない。活動目的のベクトルを自分に向けるのではなく社会に向け、社会性を持つことに取り組むことが特徴である。こうした人は、いわば「会社人」としてではなく「社会人」として、会社の名刺とは別の『2枚目の名刺』を持って活動しているといえる。

彼らは、自分のスキルや専門知識を活かした所謂プロボノとしてボランティア活動を行うだけでなく、ある社会活動の趣旨に共感したときには自分のスキルや経験とは直接関係がなくてもそれに参加する、ということも少なくない。「自分自身が関心を寄せる分野で何か活動をしたい」、「社外で新しいことに挑戦したい」、あるいは「これまで培ってきた経験を社会に還元したい」といった考えを持つ人が増えている。また、ただ単にプロジェクトを手伝うのではなく、当事者としてより深く活動に関わり、場合によっては、活動を行うための組織や場を自ら立ち上げるケースもでてきている。

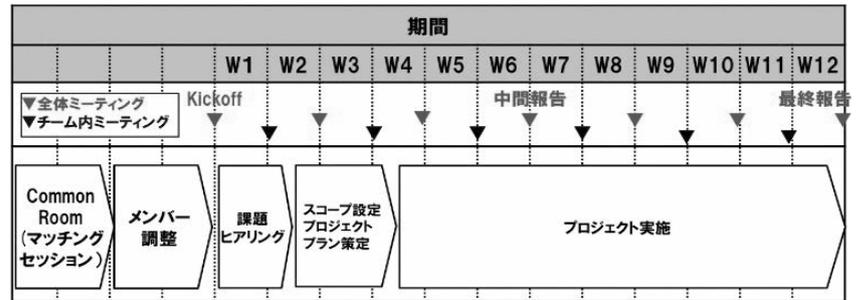
### 2. 『2枚目の名刺』を持つきっかけづくり（「NPOサポート・プロジェクト」）

NPO法人二枚目の名刺では、「こんな社会を実現したい」というところまで明確になっても「何らかのかたちで社会を創るアクション」に取り組みたいと考えている社会人が、『2枚目の名刺』を持つきっかけとして、「NPOサポート・プロジェクト」を実施している。

「NPOサポート・プロジェクト」では、異業種の社会人5～6名が期間限定（約3か月）でチームを組んで、社会課題の最前線で奮闘するNPOの事業推進にNPOメンバーとともに取り組むプロジェクトを運営している。

この活動は、「Common Room」というイベントから始まるが、そこでは、複数の NPO の代表者が、『2枚目の名刺』を持ちたいと思っている 30~40 人の社会人を前に、それぞれ自分の NPO の行っている活動の内容や目標を語りながら、今後の展開に必要な仲間集めをするのである。

個々のプロジェクトは、社会人側が「Common Room」で出会った中で共感した NPO の活動に参加することで組成されるが、プロジェクトの具体的な業務や協働の仕方はプロジェクト毎に NPO 側と参加者側とが一緒になって決めていくこととなる。



【標準的な進め方】

- 1プロジェクト3か月程度、中間報告会・最終報告会を設定
- 取り組み分野、テーマの制約なし
- メンバーの個人作業は約5-10h/週
- ミーティングは約1回/週 2h程度

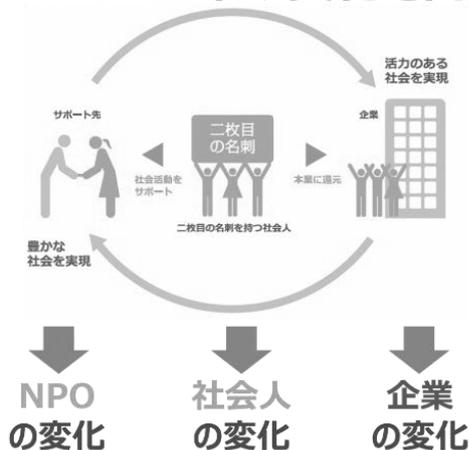
### 3. NPO、社会人、企業に同時に生まれる変化

こうした『2枚目の名刺』を持つ活動によって、NPO、社会人、そして社会人が所属している企業等の三者で同時に好影響が生まれていく。

まず、NPO 側では、プロパーのスタッフだけでは出来なかった対外発信の強化、新たなサービスの展開、資金集めといった課題について、社会人との協働を通じて取り組むことができるようになる。

また、『2枚目の名刺』を持って活動した社会人は、情熱をもった NPO のリーダーたちと接触することによって、大きく気持ちが揺さぶられる。こうした経験によって、自分が会社生活の中で抑制してきてしまった熱意を思い出すことであろう。また、曖昧

## “2枚目の名刺”を通じて 社会人・NPO・企業の変化を同時に実現



だった自らの価値観をはっきりさせ、自らの仕事や人生を再定義する機会も得られる。NPOのメンバーと様々な新しい課題に取り組んでみて上手くいかないこともある。しかし、そうした経験さえも、勤めている企業では得難い貴重な経験であり、前向きにとらえられるものとなる。

こうした社会人の変化は、職場の方にも還元されることになる。こうしたことから、近年ではこの「NPOサポート・プロジェクト」に社員を参加させたいとする企業が増えてきている。企業としては、「企業の社会的責任」(CSR)という観点から社員にボランティア活動をさせたいということだけではなく、むしろ、『2枚目の名刺』を使った活動に、個々の社員の能力を引き上げる可能性、あるいは、新しい人とのつながりや社会のニーズの発掘、そしてイノベーションの創出といった様々な面での大きな期待を寄せている。

このように、『2枚目の名刺』という活動によって、NPO側が変化するばかりでなく、社会人の変化をもたらし、さらにはそれが勤務先にも還元されていくサイクルが生まれるようになる。自分のためだけに行う「副業」では生み出されない価値がそこにあるといえよう。

#### 4. これからの社会を創る仕掛け

これまでの社会では、行政が主体となって、様々な課題の解決を図ってきたほか、行政の手の届かない分野については、NPOなどが担ってきた。今後は、企業なども含め、多くの関係者が夫々の強みを生かしながら協働して、社会においてより大きな価値をもたらすこと（「コレクティブ・インパクト」の創出）が必要となろう。

実際、「このような社会を実現したい」という強い思いを持った人々を中心に、既存の組織や枠組みを超えた協働プロジェクトがいくつかがみられ始めている。

#### マイミッションを中心に、既存の組織・枠を超えて生まれるプロジェクトが増えていく



例えば、渋谷では、小学生が地域の大人と対話し、街の課題を見つけ解決策を提案、実現に向け取り組むプロジェクト「Social Kids Action Project」が2017年初に立ち上がった。このプロジェクトでは、子どもたちを中心として、企業・地域（町会、商店街）・行政（渋谷区）が幅広くつながる形となっており、個人と2団体のNPOが主催し、同業の複数の会社が協賛する、という従来の常識では考えられない形での協力関係が出来ている。

## 渋谷 : Social Kids Action Project



- 渋谷区の小学生が、地域の大人と対話し、街の課題を見つけ、解決策を提案、実現に向けて取り組む
- 子供を中心に、企業・地域・行政がつながり、新しい価値が生まれる

主催 : NPO法人放課後NPOアフタースクール  
NPO法人二枚目の名刺  
Kids Experience Designer 植野氏

特別協賛 : 東急不動産  
協賛 : NTT都市開発、表参道ヒルズ、ラフォーレ原宿

協力 : 隠田商店街、隠田表参道町会、原宿表参道樺会  
渋谷区青少年対策神宮前地区委員会  
SECOM、東京メトロ、日本郵政、Beams

後援 : 渋谷区、渋谷区教育委員会

また、汐留でも、「働く」と「生きる」をテーマとして、自分が目指す姿（My Mission）を宣言した人々が中心となって、汐留に所在する企業（複数の企業の人事社員）、NPO、学生、行政（港区）が幅広く参加して活動するプロジェクトを2017年夏に始動させている。

こうした幅広い主体が協働する取り組みが今後さらに広がっていくためには、特定のミッションに共感した人々が、自分の所属にとらわれずに、組織の壁を越えて協力していくこと、すなわち「会社人」ではなく、「社会人」として『2枚目の名刺』をもつことがとても重要となる。企業等が、従業員の組織外での活動を「副業」として禁止するのではなく、そうした社会人としての熱い思いを後押ししていくことを期待したい。

## 汐留 : LifeWorks Project

ライフがよろこぶ、ワークをふやそう。

- 汐留に所在する複数企業の人事社員が会社を超えて「働く」と「生きる」をテーマに始動した汐留地域のプロジェクト
- 汐留企業、港区、地域NPO、大学生が参加。My Missionを宣言した人を中心に、複数のプロジェクトが始動

